

富士市「景観重要樹木」

指定番号	第 1 号
指定の年月日	平成 2 3 年 2 月 9 日
樹種	イチョウ
所在地	富士岡 8 1 富士岡地藏尊
指定の理由となった樹容の特徴	樹勢は旺盛で、枝葉が良く茂っている。樹形も雄大で美しく、大きな乳状下垂も多い。地域のシンボルであり、景観上重要な樹木である。
規模	幹周 6.2m 高さ 26m
備考	静岡県指定天然記念物。推定樹齢 6 0 0 年以上。 母乳が出なくて困った母親が、この木に針を刺したら母乳が出るようになった、という言い伝えから子育銀杏とも呼ばれている。 枝分かれしている部分は、上記よりもはるかに幹周が大きい。

写真



景観重要樹木第 1 号の近影(令和 8 年 4 月 22 日撮影)



富士市「景観重要樹木」

指定番号	第2号
指定の年月日	平成23年2月9日
樹種	エノキ
所在地	岩淵181地先 旧東海道一里塚（西側）
指定の理由となった樹容の特徴	一里塚全体に力強く根を張り、大きく枝を広げた美しい樹形である。旧東海道の曲がり角に位置し、市民や旧東海道を散策する人々の目印となっている。間の宿岩淵の歴史、文化を象徴する貴重な樹木である。
規模	幹周4.95m 高さ19.5m
備考	徳川幕府の命により整備された旧東海道一里塚に植えられたエノキ。一里塚は静岡県指定史跡。 岩淵は、起点の江戸日本橋から37里目に当たる。

写真



景観重要樹木第2号の状況と近影

(1) 令和4年度末～令和5年度末までの樹木の状況と対応について

当該樹木の維持管理を行う市教育委員会文化財課が、令和5年3月に維持管理委託業者から、幹に空洞があり表面には多くのサルノコシカケが発生しているとの報告を受け、同年6月に樹木医が診断した結果、腐朽菌が樹木内部に浸透し、台風などの強風で倒木・太枝の落下の危険性があることから、令和6年3月に剪定を実施した。

太い幹の枝分かれ部分で剪定した太枝8本のうち、3本の内部が腐朽していたが、その他の太枝は健全な状態であった。

切り口には、防腐剤を塗り、紫外線から守るために防草シートで覆うとともに、脇芽が出るよう処置を行った。



【南側】剪定前（令和6年2月28日）



【北側】剪定前（令和6年2月28日）



【南側】剪定後（令和6年3月4日）



【北側】剪定後（令和6年3月4日）

(2) 令和6年度の状況

剪定から5か月経過した現状では、切り口付近から新しい枝葉が伸び、剪定前ほどではないが大きく枝を広げた樹形を形成し始めている。



(3) 令和7年度の状況

1年前の写真と比較しても大きな変化は見られない。



(4) 令和8年度の状況

腐朽が確認された幹の北側からは、若葉の芽吹きは認められず、また、幹の南側に芽吹いていた枝についても、成長が鈍化し細い枝となっている。



（５）今後の予定

令和８年度末に、定期的な剪定と合わせて、樹木医による診断をいただき、樹木の生育状況を確認したうえで、今後の対応方針について協議していく予定。

富士市「景観重要樹木」

指定番号	第3号
指定の年月日	平成23年2月9日
樹種	マツ
所在地	依田橋585-2地先 旧東海道左富士
指定の理由となった樹容の特徴	広重の東海道五十三次の浮世絵で有名な「吉原・左富士」に残る老松。太い幹が歴史を感じさせる。往時の旧東海道左富士の松並木の風景をしのばせる貴重な樹木である。
規模	幹周2.15m 高さ9.5m
備考	東海道を東から西に行くとき、富士はいつも右手に美しい姿を見せるが、ここだけは松並木の間から左手に見えることから“左富士”と呼ばれ、街道の名勝となった。 平成19年に、市がポケットパークとして整備した。

写真



景観重要樹木第3号の近影(令和8年4月22日撮影)

